

51 樹脂加工布の汚れ保持性とその改善方法

お茶の水女子大 牧野 和子
松川 哲哉
渡辺 許子

1 樹脂加工の際にアクリル系ポリマーを併用することが、加工布の汚れ保持性を著しく増していることを見出し（お茶大自然科学報告, 9, 24, 1958), これを改良する一方法として水溶性ビニルポリマーを併用したところ

例えばビニルメチル無水マレイン酸の共重合体 (PVM-MA) によっては、汚れの洗浄性がむしろ改善されることを認めた (織学誌, 15, 570, 1959)。この点をさらに検討し、他の有効な配合剤を考慮しようとした。

2 樹脂原料としては通常のジメチロールエチレン尿素 (DMEU) を主とし、対象も綿布に限り、常法によって樹脂加工を施したが、ソーピングは原則として省いた。汚染性・洗浄性の判断は日本油化学協会の洗浄力試験法暫定案 (油脂化学便覧, p. 654, 丸善, 1958) に準じた。併用した高分子は CMC, アルギン酸ソーダ (SA), PVM-MA, 酢酸ビニルマレイン酸ソーダ共重合体 (PVAc-MA) などである。

3 これらの高分子の併用によっても樹脂加工布の洗浄性は高まるが、いずれも防シワ性はやや低下する。その主因は加工液中で DMEU とこれらの高分子とが反応し、防シワ加工に有効な DMEU の量を減少するためであることを認め、これを防止する一手段として、DMEU と触媒だけで加工し次にこれらの高分子液により処理することで、さらに少量の高分子で洗浄効果を上げ得た。